

自己評価報告書

平成 23 年 4 月 1 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008 ～ 2011

課題番号：20402004

研究課題名（和文） 現代中央アジア地域における社会開発に関する調査研究

研究課題名（英文） Research on social development in contemporary Central Asia

研究代表者 大谷 順子 (OTANI JUNKO)

大阪大学・人間科学研究科・准教授

研究者番号：90403930

研究分野：社会科学 B

科研費の分科・細目：地域研究

キーワード：国際社会開発、人間の安全保障、国際研究者交流、多国籍、国際保健、人口、情報通信技術（ICT）、地震・災害

1. 研究計画の概要

中央アジアを対象に社会開発の現状について現地調査をおこなった。人間の安全保障の概念を取り入れ、特に、保健分野、教育分野、ICT（情報通信技術）の利活用促進による社会開発、地域コミュニティ開発とマイクロファイナンスの取り組みについて調査をおこなった。これらは国連ミレニアム開発目標（MDGs）を達成するための課題でもある。本研究は、先行研究である九州大学教育研究プログラム・拠点形成プロジェクト（P&P）アジア総合研究「アジア地域における人間の安全保障の観点による社会開発に関する新たなフレームワークの研究（研究代表：大谷順子）」の成果を踏まえ発展させているため、先行研究において現地調査に行くことができなかった地域を中心に現地調査を行う。

2. 研究の進捗状況

初年度である平成 20 年度は、タジキスタン、トルクメニスタン、中国新疆ウイグル自治区（以下、新疆）など中央アジアにおける社会開発の現地調査に注力した。それらの現地調査では各国政府や国際機関、さらには NGO など民間の取り組みをあわせて聞き取り調査やプロジェクトサイトの視察を行った。また、2008 年 5 月に四川大地震、同年 3 月と 10 月には新疆において地震が発生したため、これら地域においては被災地調査も行った。その際、新疆大学や、四川大学など現地の大学との連携による現地調査を行うことに加え、アジア開発銀行や世界保健機関など国際開発協力

を行う機関へのヒアリング調査も行った。

2 年目となる平成 21 年度は、現地調査を実施する地域については新疆を中心に設定した。中国と中央アジア各国との経済的な繋がりは強固なものになっておきており、新疆を調査することで中央アジア諸国との関係を調査した。新疆における JICA（国際協力機構）の遊牧民定住化プロジェクトの視察を含め、現地調査に注力した。先行研究と本助成研究で行けなかったモンゴルやロシアにおいても現地調査を行った。国境を越えてのカザフ族など中央アジア人のコミュニティそれらの現地調査では各国政府や国際機関、さらには NGO など民間の取り組みをあわせて聞き取り調査やプロジェクトサイトの視察を行った。

新疆では、2009 年 7 月の 7.5 事件以来、緊張状態が続いている。当初は電話、インターネットがすべて遮断されており、現地との連絡がまったく取れない状況であったが、本研究に関連する研究者は現地のカウンターパートとの研究協力の体制を確立していたため、継続しての現地調査が可能であった。また 2010 年 4 月にはキルギスの首都ビシュケクでの暴動、6 月には同国南部の都市オシュでの暴動など、本研究が対象とする中央アジアという地域の現地調査には困難が伴うことを再確認させられている。

3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。

論文の執筆や書籍の出版など文章での成果発表に加え、大学の市民公開講座を開催するなど積極的に研究成果の公開を行った。来

年度も本研究に関連する研究者による書籍出版も計画しているなど、日本の中央アジア地域研究に大きく貢献している。国内の学会だけでなく、海外での国際学会でも発表の機会を持った。国内と海外の両方において研究会や学会とそのフィールド・トリップに参加し、他の研究者たちとの討論に参加し、発表を行った。

本研究は国際開発協力の視点を持つものである。中央アジアの地域研究に関わる研究メンバーのそれぞれが、本研究での経験を活かし、中央アジアに関連する周辺地域での国際開発協力プロジェクトに従事を開始するなどの派生的な成果も生まれている。

4. 今後の研究の推進方策

これまで中央アジア5カ国について現地調査を実施し、本研究の特色であるアジアとの関係に見る現在中央アジアの姿を明らかにするため中国新疆ウイグル自治区の調査を継続している。最終年度は本研究4年間の総括を行う予定である。それにとまない研究発表の機会を増やす。

中国新疆ウイグル自治区やキルギスで発生した暴動にみるように、不安定な社会情勢のため現地調査の継続が困難な地域であることは間違いない。しかしながら、中央アジアという地域に対して中長期的な研究は継続して行いたい。情報通信規制がとられているため現地に実際に赴く必要がある。

本研究で得た学術的な現地のネットワークや、国際開発機関のカウンターパートとの繋がりは貴重な研究資産であり、最終年度まで本研究に取り組み、更なる研究の深化を目指す。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 29 件)

- ① 希日娜依・買蘇提 (シェリンアイ・マソティ)・大谷順子 「新疆ウイグル自治区の特有群体「民考漢」についての研究」『中国 21』特集「民族と開発」愛知大学現代中国学会編 風媒社 34 巻 281-302 頁 2011 年
- ② 希日娜依・買蘇提 (シェリンアイ・マソティ)・大谷順子 「中国新疆南部の農村地域におけるウイグル人女性の教育状況に関する調査報告」『九州大学アジア総合政策センター紀要』4号 67-83 頁, 2010 年
- ③ 河野明日香・大杉卓三・大谷順子 「中央アジア諸国におけるコミュニティ研究—女性のコミュニティ活動を中心に—」

『アジア女性研究』第 18 巻 83-95 頁 2009 年

- ④ 大谷順子 「四川大地震に見る現代中国」『九州大学アジア総合政策センター紀要』3号 23-38 頁,2009 年
- ⑤ Kawano, Asuka., Osugi, Takuzo, Otani, Junko, 'Women's community activities in Central Asia from gender perspectives', Journal of Asian Women's Studies, Vol. 17: 70-81, 2008.

[学会発表] (計 15 件)

- ① Takuzo Osugi, Social development needs in ICT sector in Central Asia, VIII International Council for Central and East European Studies World Congress, 26-31 July 2010, Stockholm
- ② Junko Otani, Environmental health at a time of economic growth in China: Globalization and conflict, Osaka University Forum 2010: Globalization and Conflict: Entanglement between local and cosmopolitan orientations, 28-30 September 2010, University of Groningen.
- ③ Junko Otani, Awareness of college students on health impact of smoking and impact of health education in Central Asia, measured by the Kano Test for Social Nicotine Dependence (KTSND), The 9th Asia Pacific Conference on Tobacco or Health (APACT), 6-9 October 2010, Sydney.

[図書] (計 34 件)

- ① 大谷順子 『災難後の重生』(中国語) 南天書局 (台湾) 2010年全364頁
- ② Junko Otani "Older people in natural disasters", Kyoto University Press & Trans Pacific Press: Australia, 2010年, 全278頁
- ③ 大杉卓三・大谷順子 『人間の安全保障と中央アジア』花書院 2010年 全255頁
- ④ 大杉卓三 『情報ネットワークで結ぶシルクロード—国際開発協力からみた現代中央アジア』中国書店 2009年 全175頁